

表 2 照明器具の材料及び表面処理

耐塩害レベル	照明器具材料		表面処理 (表 1 の塗料記号)	備 考
重耐塩	SUS304		A、B、C、E 又は F	溶剤系塗料の場合は、2 回焼付塗装を推奨する。
	アルミ合金	ADC、AC	A、B、C、E 又は F	溶剤系塗料の場合は、2 回焼付塗装を推奨する。
		板、形材など	A、B、C、E 又は F	溶剤系塗料の場合は、2 回焼付塗装を推奨する。
	鋼材		溶融亜鉛めっき後 A、B、C、E 又は F	
溶融亜鉛めっき			より高い防錆性能を要求される場所には、溶融亜鉛めっき後、塗装を推奨する。	
耐塩	SUS304 又は SUS430		A、B、C、D、E 又は F	
	アルミ合金	ADC、AC	A、B、C、E 又は F	
		板、形材など	A、B、C、D、E 又は F	
		皮膜処理材	無塗装	アルマイト処理又は同等以上のコーティング。
	鋼材	処理鋼材	A、B、C、D、E 又は F	亜鉛めっき鋼板又は同等以上のコーティング。
		鋼材	溶融亜鉛めっき後 A、B、C、D、E 又は F	
			溶融亜鉛めっき	より高い防錆性能を要求される場所には、溶融亜鉛めっき後、塗装を推奨する。
鋼板		A、B、C、D、E 又は F	溶剤系塗料の場合は、2 回焼付塗装とする。	

((社) 日本照明器具工業会 ガイド 117 : 2010 抜粋)

表 3 照明用ポールの材料及び表面処理

耐塩害レベル	ポール材料	表面処理 (表 1 の塗料記号)	備 考
重耐塩	SUS316 又は SUS304	A、B、C、E 又は F	より高い防錆性能を要求される場所には SUS316 を推奨する。
	アルミ合金	A、B、C、E 又は F	
	鋼材 ¹⁾	溶融亜鉛めっき後 A、B、C、E 又は F	
耐塩	SUS304	A、B、C、E 又は F	
	アルミ合金	A、B、C、E 又は F	
	鋼材 ¹⁾	溶融亜鉛めっき後 A、B、C、E、F 又は G	
溶融亜鉛めっき		より高い防錆性能を要求される場所には溶融亜鉛めっき後、塗装を推奨する。	

注¹⁾ 道路、広場などに設置されるテーパーポールの表面処理は、JIL 1001 による。

((社) 日本照明器具工業会 ガイド 117 : 2010 抜粋)

2.2 風の影響に対して

屋外で使用する一般形照明器具には、設計風速 40 m/s～60 m/s 仕様があります。メーカーカタログ又はメーカー仕様図面等に記載されている場合があります。使用場所に適した性能を有するものを選定する必要があります。

沖縄県、離島等に設置される場合や建物の屋上・山稜・橋梁・沿岸部などに設置される場合、一般部に比較して、明らかに強風が吹く地域と判断される場合は、建築基準法施行令、建築物荷重指針などを参照し、地表面の状況により速度圧の割り増しを考慮する必要があります。

2.3 振動の影響に対して

照明器具に影響を与える振動には、地震、車両走行に伴う振動、風により周囲に発生した渦等による振動や風の変動による振動があります。特に海岸部等の橋梁、高架橋及び歩道橋は、振動が発生しやすい